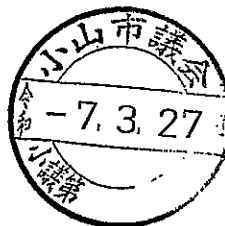


視察調査・研修会等報告書

別添様式 5



令和6年10月15日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎佳之 様

議員氏名(佐藤忠博)

研修・視察日時	令和6年7月24日
研修会場・視察先	国際ビル
研修名・視察目的	地方議員研究会 公共施設特別研修
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	
参加議員(同行者)	荒川美代子・大平拓史
調査概要	講師:黒瀬雄大 プロフィール:大阪府交野市役所・交野市議会議員・民間企業勤務 テーマ:今さら聞けない質問のキソのキソ
	・概要 今回の研修では、「議会における質問」の本質と効果的な活用法について学びました。議員の質問は、市民に直接的な利益をもたらす、行政を動かすための重要な手段であり、個人的な疑問の解消ではなく、課題解決を促進することが求められます。質問には、迅速な結論を得るためのクローズドクエスチョンと、背景や意見を引き出し深い議論を促すオープンクエスチョンがあり、それぞれの使い分けが重要です。また、「次に何を、いつまでに、誰がやるのか」を具体的に確認することで、質問の実効性を高める必要があると学びました。
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	・参考 研修で学んだ内容を基に、市政における質問を改善するためには、以下のポイントを活用することが有効です。まず、具体的な質問例を活用することで、質問の焦点を明確にし、行政の成果を追求する具体性のある議論が可能となります。例えば、「この予算で期待する具体的な効果は何ですか?」や「緊急の場合とは具体的にどのような状況を指しますか?」といった質問を通じて、行政の意図や施策の成果を明確にすることができ

視察調査・研修会等報告書

ます。

さらに、「たちつと」フレームワークを活用することで、質問を多角的かつ効果的に展開できます。「た(例えば)」では具体例を求め、「この事業効果について、具体的な成功例を教えてください」といった質問を投げかけます。「ち(違い)」では比較を求め、「過去の事例と今回の違いは何ですか?」という形で質問を深めます。また、「と(統計的な裏付け)」ではデータを基に議論を進め、「この事業の進捗を示す統計データはありますか?」といった質問を通じて客観性を高めることが可能です。

加えて、質問の表現を改善することも効果的です。たとえば、「意気込みをお聞かせください」という漠然とした質問を、「どのように実現するのか、具体的な進め方をお聞かせください」と改めることで、より具体的な回答を引き出すことができます。また、「この予算はなんですか?」という質問を「この予算で期待する具体的な効果は何ですか?」に置き換えることで、施策の目的や意図を明確にすることができます。

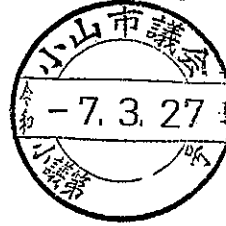
これらの手法を活用することで、議会質問を通じた行政の透明性を向上させるとともに、市民利益への貢献をさらに高めることが期待されます。

・所感

今回の研修を通じて、議会質問には「具体性」と「目的意識」が不可欠であることを改めて実感しました。特に、「たちつと」フレームワークは質問を明確にし、議論の質を高める上で非常に有用な手法であると感じました。また、市政においては、市民目線を徹底し、市民の声を吸い上げた質問活動が欠かせないと痛感しました。

今後は、市民の利益に直結する具体的で建設的な質問を行うことを心がけます。また、他自治体の事例や統計データを活用し、より実効性の高い政策提言を行いたいと考えています。研修で得た知識を活かし、議会質問の質を向上させることで、透明性と効率性を兼ね備えた市政の実現に貢献していきたいと思いをします。

視察調査・研修会等報告書



令和6年10月15日

議員氏名(佐藤忠博)

研修・視察日時	令和6年7月25日
研修会場・視察先	志布志市役所 使用済み紙おむつ再資源化事業について
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	市議会議長 福重彰史、議会グループサブリーダー [REDACTED] 環境政策グループリーダー [REDACTED] 環境政策グループ [REDACTED]
参加議員(同行者)	荒川美代子・大平拓史
調査概要	調査の目的は、使用済み紙おむつの再資源化事業の取り組みを調査し、その可能性や課題を理解すること。具体的には、地域家庭から使用済み紙おむつを回収し、それを資源として再利用する仕組みを確立したものであり、環境への配慮と地域活性化の両立を目指した先進的な取り組みです。
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	自治体と民間企業が連携し、紙おむつの洗浄や素材分離を行い、新しい製品を製造するプロセスです。リサイクルの工程が地域全体で効率的に行われ、資源循環のモデルケースとして全国的に注目されています。回収率が高く、市民の協力を得ていることも素晴らしい成果といえます。また、この事業を通じて、埋め立てゴミの減少や廃棄物処理施設の延命といった、地域の課題解決に貢献している点も高く評価されます。環境保護だけでなく、地域住民の意識向上にもつながっていると感じました。志布志市の取り組みは、他自治体にとっても参考になる実践的なモデルです。この視察を通じて得た知見を、今後自分の地域における環境政策やリサイクル活動の推進に活かしていきたいと思えます。

視察調査・研修会等報告書

別添様式5



6年10月15日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎佳之 様

議員氏名(佐藤忠博)

研修・視察日時	令和6年8月5日
研修会場・視察先	国際ビル
研修名・視察目的	地方議員研究会 公共施設特別研修
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	
参加議員(同行者)	荒川美代子・大平拓史
調査概要	<p>講師:村山祥栄 京都市議会議員 地域政党京都党代表 テーマ:住民満足度爆上がりの質問の仕方「可視化と不安解消」</p> <p>1. 可視化:昭和から続く公共インフラや箱物(施設)の再整備や活用について、市民にとって「目に見えて便利」な改善が、市民満足度向上に寄与する点が強調されました。施設や整備事業に対して「作った人への感謝」を忘れず、ハード面での変化をしっかりと市民に伝える重要性が示されました。</p> <p>2. 不安解消:災害時の避難所運営における課題が取り上げられ、市民が抱える不安をいかに解消するのか述べられ「避難所の権限設定」「防災公園の整備」「避難行動要支援者名簿の活用」に関する現状と改善策が示され、行政と市民の連携の重要性が強調されました。</p>
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	<p>市制の課題への参考点 この研修内容は、現在の市制課題に対して以下のような示唆を与えるものと感じました。</p>

視察調査・研修会等報告書

1. 公共インフラの「可視化」による市民満足度向上

現在進行中のインフラ整備や、既存施設の有効活用を市民にわかりやすく伝えることが、市民満足度を大きく向上させる鍵となります。特に大山地域での公共交通(O-Bus)の整備や、防災公園の活用など、市民にとって具体的な変化を示す取り組みが必要です。

2. 災害対策の強化による不安解消

避難所の権限設定: 自主防災会や地域住民が避難所を迅速に開放できる仕組みを導入することで、災害時の混乱を防ぎ、不安を解消する。

防災公園の整備: トrendとして挙げられた「防災公園」の活用により、災害時の避難場所を確保しながら、日常的には高齢者や子どもの憩いの場としても利用できる空間を整備する。

避難行動要支援者名簿の活用: 名簿を効果的に活用し、支援が必要な市民への迅速な対応体制を整えることで、災害時の安心感を向上させる。

3. ハードとソフトの両面での取り組み

本研修で学んだように、市民はハード(施設整備)だけでなくソフト(時間や行政対応の質)の変化を評価することが示されました。行政施策においても、これら両面をバランスよく充実させる必要があります。

4. 後の取り組みへの活用

本研修で得た知見を活用し、市民満足度向上のために「見える変化」と「不安解消」に焦点を当てた施策を推進していきたいと考えます。特に、災害時の安全性向上や公共施設の利便性向上を優先的に進めることで、市民との信頼関係をさらに深めていけると思います。

視察調査・研修会等報告書

令和 6 年 10 月 15 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎佳之 様



議員氏名(佐藤忠博)

研修・視察日時	令和6年 8 月 6 日
研修会場・視察先	延岡市役所
研修名・視察目的	平常時・災害時共通 災害に強い地方創生ネットワーク事業 ～平常時・災害時に対応した自律分散型システムの整備～
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	延岡市議会議長 早瀬賢一・スマートシティ推進室 室長 XXXXXXXXXX 室長補佐 XXXXXXXXXX 主任主事 XXXXXXXXXX
参加議員(同行者)	荒川美代子・大平拓史
調査概要	NervnNet は、延岡市が独自に開発・導入した地域防災情報システムです。このシステムは、市内のセンサーやカメラなどの IoT デバイスを活用し、リアルタイムで災害リスクを把握することを可能としています。具体的には、河川水位、降雨量、風速、土砂崩れリスクなどのデータを収集・分析し、市民への迅速な情報提供や避難指示の判断を支援する仕組みです。
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	参考 1. 防災情報のリアルタイム化の必要性 本市においても、気象変動の激化に伴い、自然災害のリスクが高まっています。NervnNet のようなリアルタイム防災情報システムを導入することで、災害リスクを迅速に把握し、効果的な対応が可能になると考えます。 2. 多言語対応の強化 国際化が進む中で、本市も外国人住民が増加しています。延岡市の多言語情報発信は、防災においても重要な取り組みとして学ぶべき点であり、これを参考に多言語対応を強化することで、より包括的な防災体制を構築する必要があると感じました。

視察調査・研修会等報告書

3. 市民参加型の仕組みづくり

市民が主体的に防災活動に関与する仕組みは、地域コミュニティの結束を強化すると同時に、災害対応力の向上にも繋がります。本市でも市民が情報を共有し、災害リスクを報告できるプラットフォームの導入を検討すべきです。

所感

延岡市のNervNetは、現代の技術を駆使し、地域の防災力を飛躍的に高める先進的なシステムであると感じました。本市においても、これをモデルにした防災システムの構築を進めることで、市民の生命と財産を守る基盤をさらに強化できると確信しております。また、これを契機に、市民の防災意識を高め、共助の精神に基づいた地域社会づくりを推進していきたいと考えます。